

#### 4 平成 29 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①工業教育の特色を活かし、社会で必要とされる専門性の向上を図る教育課程を提供する。 ②自ら課題を発見し解決する力の育成と主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 ③学校行事や生徒会活動を通じ、自他の多様性を尊重させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。	①生徒の実情にあった教育課程について、評価・検討を行う。 ①工業で必要な資格取得の合格率を上げる。 ②参加型授業の展開を図り、生徒の意欲の向上を目指す。 ②企業研究・課題研究・実習などで、主体的に学ぶ意欲の向上を図る。 ③生徒会行事の運営を通して、生徒の自立心を育成させる。	①工業科目における専門性の向上と、共通科目の充実を図る。 ①向工ジュニアマイスターを設立し、意欲関心を高めると共に資格取得に向けての指導を行う。 ②授業改善に計画的・日常的に取組み、教科を超えた研究授業・協議を通して、全教科で参加型授業の実施・展開をめざす。 ②出前授業などを行い、外部講師等の有効活用を図る。 ③各行事において、企画・準備段階から生徒が取組むように導く。	①教育課程の評価・検討ができたか。 ①資格取得合格者が昨年度の2割り程度上がったか。ジュニアマイスター申請者が増えたか。 ②生徒による授業評価の(7)学習努力、(8)意欲的な取組みにおいて、75%の生徒が「あてはまる」と回答できたか。 ②出前授業後のアンケートにおいて、75%の生徒が「参考になった」と回答できたか。 ③学校行事等において、生徒の自主的な活動がふえたか。	①学習指導要領の改訂に備えた情報収集・研究に努めた。 ①ジュニアマイスターの申請者が今年度は8名に増えた。 ②前期・後期に研究授業期間を設定し、生徒参加型の授業展開について情報共有した。また生徒による授業評価では、(7)で83%(8)で87%の回答を得た。 ②出前授業後のアンケートにおいて、90%の生徒が「参考になった」と回答した。 ③向工チャレンジカップへの参加により、生徒会中心の主体的な活動ができた。	①新教育課程作成に向けた検討の具体的準備計画を立案する必要がある。 ①合格率向上のため、指導時間の確保と、向工マイスターの周知により、ジュニアマイスターへの意欲を高めさせる。 ②授業評価では生徒は「意欲的に努力している」回答率が高いが、学力の定着に結び付けられる取組みを引き続き授業研究の課題として進めたい。 ③ボランティア委員会への協力も、生徒会中心の主体的な活動ができるように推進する。	①について ・向工ジュニアマイスター制度が、資格取得への意欲を育む原動力となることを期待します。 ・資格がどんな仕事に必要であるかを生徒自身が認識できないとモチベーション向上につながらないので、その教育も必要と思います。 ・「資格コレクター」になってしまっただけではいけないし、「取れないと話にならない」というような動機づけではなく、「力を試す」形式のものが導入されていることは望ましい。 ・資格取得の為に指導を時間外にも実施していただき生徒の向上心にも繋がった様に思います。 ②について ・参加型の授業で「参加すれば良い」「グループワークをすれば良い」というものでもない。「身体」と「思考」、および「こころ」という大きな軸を考えなければならぬだろう。インタラクティブにすれば参加型ということではないことは常に留意しなければならない。 ・この科目を学ぶことが将来に生きることを理解して貰うのが授業の出発点かもしれません。 ・1日は24時間しかなく、勉強が授業時間だけで済むように授業に集中する習慣が身に着くと良い。 ・生徒による授業評価や出前授業後のアンケートの回答は、評価に値するので引き続き力を入れてほしい。 ・学習は興味を持つ所から始まると考える。 ③について ・生徒、生徒会の主体的な活動が湧き上がるように、引き続き教職員の支援を期待します。	・教育課程の検討は、選択科目の組合せ等において検討・実施した。新教育課程の検討が次の課題である。 ・全工協のジュニアマイスター申請者も増加し、同時に向工マイスターを設置することで、取組を推進できた。 ・生徒による授業評価については、全職員が生徒自身の「意欲的な取組み」を引き出す様に取り組んでいる。これらが学力定着に結び付いたかは検討が必要である。 ・生徒会の生徒を中心に、全体的には向上できている。これらの取組みが、生徒会以外の多くの場でも見受けられるような推進が課題である。	・新教育課程の作成に向け、担当チームを編成し検討を行う。 ・「資格コレクター」ではなく、資格を持つ意味を理解させた上で、よりレベルの高い資格取得ができるように工夫する。 ・参加型授業が目的ではなく手段として用いることで、最終的に学力の定着に寄与しなければならない。 生徒が参加し、同時に学力の定着を重視した取組みの検討が必要である。 ・生徒会の自主的な活動が行えたのは、担当グループの職員の努力による部分が大きい。生徒が自主的に活動するためには、全ての教員でバックアップする体制が必要である。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①自己の成長を意識させ、社会人としての基礎力を身につけさせる。 ②部活動を通じて、責任感、協調性、自主性の涵養を図る。	①個々の生徒に応じた生徒指導・支援を外部機関等と連携をとりながら行う。 ②各部活動の活性化と自主的な活動を推進し、生徒の自立心を育成する。	①定期的な服装、頭髪及び遅刻指導を行う。 ②部活動において、練習メニュー等を生徒に考えさせるなど、自主性と協調性の育成を図る。	①定期的な生徒に対する指導ができたか。 ②部活動を通じて、生徒の自主性・協調性が向上したか。	①定期試験ごとの服装・頭髪指導及び遅刻指導を実施し、また、身だしなみや遅刻の指導を通じて、生徒の規範意識を高める事ができた。 ②部活動・生徒会において、生徒の考えを尊重し、新しいイベントに協力して挑戦させる事ができた。	①指導対象者数に減少傾向が見られるが、遅刻を繰り返す生徒は各学年に数人おり、この生徒達に対する有効な手立てがなく、検討が必要である。 ①地域貢献に取り組む生徒が多い反面、校外での生徒の振舞いに対する苦情も少なくないため、マナー教育をより充実させる。 ②生徒が活動しやすい様に部活動の環境を充実させる必要がある。また、自主的な活動をより促進し、生徒の自立心向上を目指したい。	①について ・様々な課題を抱える生徒については、引き続き根気よく対応して頂くことを期待します。 ・下校時の道の歩き方は、以前より少し良いと思うがまだ幅広く広がって歩き迷惑に思う時もある。 ・遅刻を繰り返す生徒に対して「有効な手立てがない」という記載を拝見すると、「遅刻をさせない」という方略の方に主眼が置かれており、遅刻を繰り返す生徒を「理解する」ことに少し粗な部分があるかもしれないと感じられる。まず理解することが必須である。相手の視点から世界を眺めていく必要があるのかもしれない。 ・挨拶などを率先して行っている人が多く素晴らしいと思います。また、校内外を問わず苦情や問題が起きた場合は、迅速な対応をして頂きます様希望します。 ②について ・地域に貢献している生徒達や部活動の環境の充実には引き続きの支援を期待します。 ・久地駅でハンドベルロボットの音を聞き癒された。 ・生徒の性格等にも配慮を行いながら、学校全体として引き続き粘り強く生徒指導に取り組んでほしい。	・指導件数も減少し、頭髪や遅刻指導に該当する生徒も少なくなってきた。特定の生徒の改善が見受けられない。また、心に悩みを持つ生徒が増加している傾向も見受けられる。SCやSSWの積極的な活用が必要となっている。 ・部活動においては、自主性の向上には課題がある。また、各部の活躍や地域清掃等において評価していただいているが、バイクの違法駐車や登下校におけるマナー等における苦情がゼロではない。	・遅刻指導に関しては、指導時に用いる調書で生徒理解に努めているが、より重点を置いて指導していく。心の問題で悩む生徒に対応するために、SCやSSWの拠点校としての活用を推進し、教育相談コーディネータとの協力にも力を入れる。また、各部の活躍や地域清掃等において評価していただいているが、バイクの違法駐車や登下校におけるマナー等における苦情がゼロではない。 ・部活動の自主性向上については、部長や副部長およびマネージャ等の中心となる生徒への指導において、顧問の指導力の研鑽を図る。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の充実を図る。	①生徒個々の適性と希望に応じて進路アプローチの方法を柔軟に多角的視野で講じる。 ②生徒(家庭等)が納得した進路先決定100%を目指す。 ③外部と連携した進路情報の発信を推進する。	①希望状況調査を定期的実施する。 ①適性把握のための各種検査を実施する。 ①生徒と保護者の希望のすりあわせを、面談を通じて行い確実に把握する。 ②就業体験、キャンパス見学等外部機関への参加を積極的に案内する。 ②個々の進路希望実現の為に学部機関との更なる連携と開拓を進める。 ③放課後等を利用したキャリア説明会を開催する。	①検査、調査の定期的実施ができたか。 ①検査結果、調査結果を活用した一人ひとりに向き合ったアプローチができたか。 ①マッチング重視で生徒に寄り添う支援ができたか。 ②外部機関との連携が形として残る内容で進められたか。 ②外部機関の更なる開拓ができたか。 ③就職・進学に関する説明会を、外部と連携して行うことができたか。	①検査結果は進路選択の拠り所とした。多くの生徒の就職試験対策につながった。 ①就職希望者の内定は11月末までで100%を達成した。進学希望者についても一般入試受験者を除き各種推薦入試で合格している。 ①生徒・家庭の希望を重視した支援を行った。 ②川崎北法人会との新たな連携を始めた。 ③川崎市経済労働局や川崎市法人会との連携を実施した。また、外部業者を利用し、民間企業や大学・専門学校等の説明会を実施した。	①学年行事の合間に行うことになるので、より計画的に学年と連携する必要がある。進路年間計画の学年とのすり合わせは複数回確実に行う必要がある。 ①家庭内での進路に関する話し合いを行い、内定後合格後の取消しが発生しないように面談等で働きかけを確実に行う。 ②先方の目的のひつとに租税教育があるが、こちらの目的にも関連付けることで互いの思いは満たされた。今後は就職先としての発展を臨む。 ②さまざまな職種の就職説明会を実施する。	①および②について ・生徒と保護者の希望のマッチングに大変気苦労されています。生徒の将来のため引き続きご指導をお願い致します。 ・就職希望者の内定が100%に達成したことは素晴らしいが、「希望」を提出することができた生徒に関してであることは留意する必要がある。 ・親と子供の間でも進路に対してすり合わないこともある話で、引続き宜しく願い致します。 ・川崎市としての窓口は、経済労働局労働雇用部になるので、連携して取り組んでほしい。また、地元の中小企業にも目を向けていただきたいと思います。 ・様々な形での説明会を実施することで生徒の選択肢が広がり、結果につながったのだと思います。 ・就職後の離職も少なくなる様に適性を見ながらできる限りの支援をお願いします。 ③について ・今後も就職希望者のための求人情報の拡充および進学希望者への入試形態に関する説明や入試情報の収集にお勧め頂くことを期待します。	・担任や進路支援グループの取組により、生徒の希望する進路へ対応することが出来た。また、保護者へのアドバイス等も評価できる。今後、卒業予定者全員が進路を決定できるように指導の充実を図る。また、地元の中小企業にも目を向けた取組が必要である。 ・放課後のキャリア説明会等推進することが出来た。ただし、これらの取組みの推進には、担当者の負担にならないように、組織的な取組みが必要である。	・学校辞職による希望者に対しては、今年度同様、丁寧な取組みを推進することで、合格率の維持を図る。なお、自分の将来が決められない生徒については、生徒一人ひとりの繋がり大切にするとともに、川崎市の中小企業が実施する会社見学会への参加を積極的に呼びかけを行う。 ・外部との連携も今年度同様、引き続き丁寧な取組みを実施する。教職員の多忙化解消に向け効率的な取組みを目指す。
4	地域等との協働	「地域とともに育つ向工」を実現し、「地域で活躍する向工生」を育むために、地域社会との連携による教育活動を推進する。	①「地域とともに育つ向工」を実現するため、地域社会への広報活動を行う。 ②「地域で活躍する向工生」を育むために、他校種、企業との連携事業を推進する。	①各種イベントを活用した施設・設備の魅力や学校活動を、ホームページを活用して積極的に発信する。 ①生徒自ら各種イベントに参加・運営することで自ら考える力やコミュニケーション能力を育む。 ②他校種、企業との連携を通じた教育活動の推進を行う。	①学校での活動をホームページ等で積極的に発信することができたか。 ①各種イベント、学校活動に取組むことで昨年度よりも自ら考える力やコミュニケーション能力を育むことができたか。 ②各種イベント、地域の活動に生徒が協力できたか。	①部活動や学校行事についてホームページで発信することができた。 ①文化祭や向工チャレンジカップに参加・運営することで自ら考え、行動する力やコミュニケーション能力を育むことができた。 ②体育祭や専門高校発表、ものづくり講演会を実施、生徒の協力ができた。 ②川崎市、企業、大学と連携し技術体験&アイデアソンを通して生徒のスキルアップを図るイベントを開催する。	①部活動の試合状況をいち早く把握する方法を検討。 ①生徒の参加度を高めることがすべての改善の基礎である。年間計画で、生徒の呼びかけに注力したい。 ②参加生徒が達成感を得られるように引き続き生徒に対してきめ細かな指導を行う。 ②今後、県、川崎市企業、大学と連携し本校生徒のスキルアップ向上を図る。	①・向工の活動・活躍が地域住民の方々により親しまれるように、引き続き情報発信し続けることを期待しております。 ・図書委員のメンバーによる「読み聞かせ」は好評だった。今後も続けてほしい。 ・高等学校では「地域」という感覚が薄れている場合があるかもしれないが、「共同体」の中で役割を担うことは、「大人」になるということでもある。文化祭やチャレンジカップなどから、「自らが環境の中で生かされている」感覚を身につけることはとても大切なことであると思われる。 ②・今後も地域、川崎市、企業、大学と連携して生徒の成長をご支援頂くことを期待します。 ・川崎市経済労働局工業振興課と連携し、社会人や大学生と直接関われる機会を設けることができた。次年度以降も、連携して実施していきたいと考えている。 ・各種イベントで達成感を得るとともに、課題や反省点を話し合い次に生かすことが出来たらと思います。	・ホームページの円滑な運営や、効果的・効率的な発信は十分にできなかった。また、生徒のコミュニケーション能力は、その場その場で作り上げることができないので、日々の生活や授業からも取組みを推進する必要がある。 ・外部との連携においては、川崎市を中心に、今後も様々な場面で連携が深められるように取り組む。	・ホームページの担当グループを中心に、効率的な発信体制を構築する。同時に、ホームページの構成の見直しを図る。また、授業を通じたコミュニケーション能力の向上を目標に掲げ実践したい。 ・単に連携するだけでなく連携することでより得られる効果を検討したうえで、生徒や職員にとって実のある取組を目指す。
5	学校管理 学校運営	①校内の美化意識の向上と防災教育を推進し、安全安心な教育環境を構築する。 ②すべての職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。	①生徒が校内美化と安全、防災に対する意識を日常のあらゆる場面を持ちながら行動できるよう取り組む。 ②職員の資質向上に向け、職員の連携、不祥事の防止に取り組む。	①「整理、整頓、清潔、清掃、安全」の6S運動を全校運動として展開し、安全、環境教育の推進を図る。 ①避難訓練等の防災教育により、全生徒全職員が防災に対する意識を高めるよう取り組む。 ②定期的な不祥事防止等の研修を行う。	①昨年度よりも「整理、整頓、清潔、清掃、安全」が身につく実践されているか。 ①避難訓練や学校掲示板の利用で迅速な行動や安否確認等の連絡訓練が効果的に実施できたか。 ②全職員で事故不祥事ゼロを実現できたか。	①校舎内の使用状況が良くなったと言うべきレベルまでは、まだ達していない。 ①工場や実習室内の整理整頓を徹底し日常的に6S運動の意識を持たせることができた。 ①年3回の防災訓練では昨年より避難時間が短縮された。生徒によるDIG研修を行い防災意識を高めた。 ②毎月の不祥事防止研修により不祥事ゼロを実現できた。	①年度、学期ごとに6S運動を実践する日を意識して、設定する。 ①トイレの使用状況がよくない箇所が見られ、繰り返しの指導が必要であった。 ①引き続き6S運動を徹底し、環境整備を進める。環境委員生徒をさらに効果的に活動させていく。 ①生徒のDIG研修を継続し、防災意識と地域の特性理解を図る。 ②引き続き不祥事防止研修を続け、不祥事ゼロを継続させる。	①・学校の裏手の方に置いてあった木の枝などがきれいになってよかった。 ・「職員室の中」「黒板」「教員の使う机上」の6Sを徹底する必要があるのかもしれない。 ・トイレの使用状況など学校全体として改善に向けて取り組んで行ってほしい。 ・美化活動等、PTAも一緒に参加できる様なことがあればお手伝いしたい。 ・通学路や校舎内において、危険がどこに潜んでいるかを教職員自身が把握して、生徒への安全教育を実施することを期待します。 ・避難訓練に救急法を取入れたりと、地域の方々との合同訓練なども良いのではないのでしょうか。 ②・不祥事防止は「マイナス」ではない状態に持っていくことに主眼が置かれているようであった。ただし重要なことであり不祥事ゼロは大変好ましい。 ・「職員の資質」は、指導力・授業力・生徒理解力・保護者との対応力など様々なものが想定され、ある程度分けて考えた方が「資質向上」につながるかもしれない。 ・仕事上でストレスを貯めこまないように学校管理者や補佐される先生方が、先生方への心配りと心身の健康管理を引き続き期待します。 ・教職員の不祥事防止についても、引き続き取り組んで行ってほしい。	・6Sに関する取組みにおいては、専門教科を中心に授業の範囲内では積極的に取組まれているが、トイレや校舎内等の公共の場においては、不十分な面が散見されている。教職員自らが取組み、また、その取組みを生徒に見せることで改善できる部分もある。なお、防災教育については、単なる避難訓練だけでなく、継続した取組みで万が一の災害時へ対応を学ばせる。 ・職員の不祥事防止については、職員のメンタルヘルスの取組みを推進すると共に、事故・不祥事ゼロを推進する。	・常に清潔が保たれている場所は汚しづらいため、汚れが発生した時点で清掃に取り組むことが大切である。生徒自身の清掃活動のみに目を向けるのではなく、気が付いたら清掃というスタンスで、全職員の取組みを推進する。 ・防災教育については、継続した取組みで万が一の災害時へ対応を学ばせる。 ・不祥事防止は、事故・不祥事ゼロが最低の目標である。日々の声掛けを中心に継続した取組みを行う。